

いじめ問題を考える 特集

●パート1

子どものいじめは、大人社会の縮図

もう無関心ではいられない

いじめの問題が、これほど大きな社会問題として取り上げられた時代が過去にあったでしょうか。しかも、いじめによって、自殺にまで追い込まれるという異常な状態までに至っていることを、私たちは他人ごととして見過ごしてよいのでしょうか。

21世紀の社会は、国際・高齢社会です。その時代を担う今の子どもたちが、心身ともに健康で健全に育つために、今、子どもたちの置かれている環境を市民の皆さんと考え、そして改善し、いじめのない明るい地域社会を作っていくことを目的に、市(行政)と教育委員会(学校)、そして市民(家庭、地域)が力を合わせて、この問題に取り組むことにしました。

そこで今回の特集は、市民の皆さんにいじめに関するアンケートにお答えいただき、今後のいじめ問題の解決に役立させていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

小学生のいじめが半減

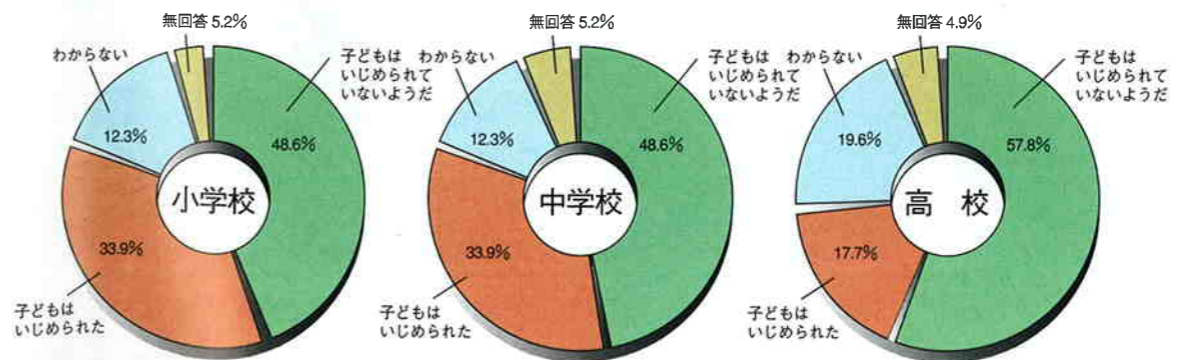
調査結果のなかで、いじめに教師が対応したところ、「いじめられなくなった」とする小学生が47・6%で、「よけいじめられるようになった」は1・7%でした。中高校生の回答も同じような比率を示し、この結果から、いじめを教師に相談すると「先生に密告した」として、いじめがさらに激しくなると思われていた定説が、現在では通用していないことが分かりました。このことが、子どもや親が教師に相談しやすくなる要因になってくれればと期待されています。

次に、「いじめた子が自分がいじめた相手と「仲のよい友達だった」とする比率が高く、「仲が悪かった」と答えたのは10%台でした。このことか

を対象としたアンケート調査の結果を発表しました。結果は、新聞などで皆さんもご存じとは思いますが、そのなかで興味深い点を紹介します。

特に、考えさせられる点としては、子どもが「いじめられている」と回答しながらも、その担任の教師や親が見落としていた率は、小・中学校で教師より親の方が高かったことです。また、中学校での担任の見落としは28・9%で親が48・6%にも上りました。「いじめには教師よりも親が気付くべきだ」と、いじめの事件のたびによく言われたものでしたが、調査結果では「子どもから聞いて初めていじめを知る親に対し、子どもが集団でいる場に身を置く教師の役割が大きいことが分かりました。」

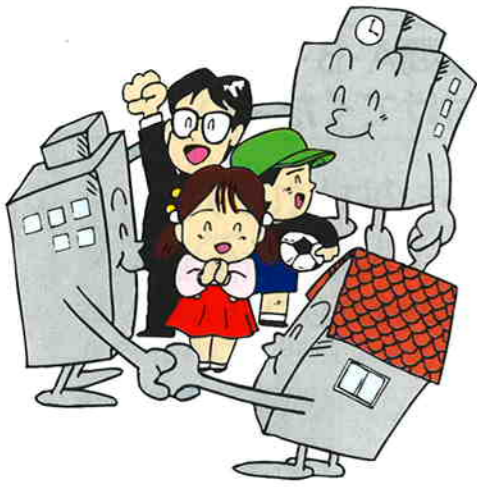
「いじめられた」と答えた子どもの保護者は、わが子がいじめられたことを知っているか



※立体円グラフは、文部省アンケート調査結果のデータを使用しています

いじめの問題に取り組む市の現状は

文部省が実施した全国のいじめ問題に対するアンケート調査の概略をお知らせしましたが、皆さんがご知りになりたいのは狭山市でのいじめ問題でしょう。市では小・中学校での「いじめの状況調査」を毎年実施しています。平成6年4月1日から平成7年3月31日までの一年間をかけた調査では、小学校17校のうち12校・23件、中学校10校のうち9校・38件のいじめが発生したと報告されています。発見されたいじめは、学校や家庭の取り組みなどで小学校の発生23件のすべてと、中学校の発生38件のうち34件が平成6年度内に解消されました。この調査からも分かるように、狭山市でもいじめが発生していることは事実です。ともすると学校の体面をおしはかかって、いじめ問題を隠そ



いじめ根絶対応委員会メンバー

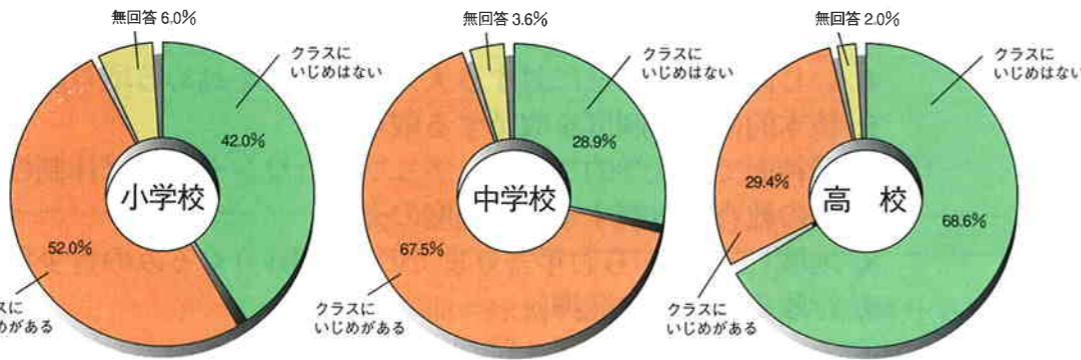
元埼玉県教育長・竹内克好氏、一橋大学名誉教授・上原行雄氏、元狭山市中学校校長・原田大典氏、青少年育成アドバイザー・笹島千代子氏、狭山市家庭児童相談員・緑川玉江氏、臨床心理士・沼崎千枝子氏、埼玉いのちの電話副理事長・坂野保吉氏

うとするような体質があると一般的に思われがちですが、狭山市ではそのような体質はまったく見受けられません。むしろ現状を直視し、事実を事実として受け止めることが取り組みの第一歩と考え、「私の学校では残念ながらいじめはありません。」と語る校長先生が多いのが現状です。大切なことは、今後どうすべきかという点で、過去を問題にするのではなく未来に向けて前向きに考えることが重要です。

家庭での取り組みが大切

いじめ問題の解決のカギは、教師がにぎっていると考えられる一方、それと同等、いやそれ以上に大事なことは家庭での教育とも言われています。いじめめる子どもの保護者の70・80%が、自分の子どもがいじめられているという事実を知らないということにも注目すべきです。いじめられている子ども、いじめられている子ども、両者とも、その親の取り組みは重要です。しかし、重要と分かっているにもかかわらず、実際にどう対処しているのかからい保護者のかたもいることと思えます。そこで、家庭でできる取り組みを紹介してみたいと

「今のクラスでいじめられた」と答えた子どもの担任は、自分のクラスのいじめを知っているか



広報さやまの特集記事で掲載する予定です。なお、本文中の「いじめ根絶対応委員会」についての問い合わせについては、教育センター内同委員会事務局へ ☎56-2299 内線567